



中都市主婦の生活時間構造の追跡的調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清野, きみ メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00002707

中都市主婦の生活時間構造の追跡的調査

清 野 き み

北海道教育大学函館分校家政学教室

On Current Daily Life Styles of Housewives in Medium-sized Cities

Kimi KIYONO

Home Economics Laboratory, Hakodate College, Hokkaido University of Education,

Hakodate 040

Abstract

This investigation is about the amount of time spent in doing various daily activities by housewives. Time spent in work other than housekeeping has increased since 1970. When wives are employed, there are changes in the structure of the daily and weekly use of time. This study involves both employed and unemployed housewives on ordinary days and holidays, as compared to a similar study made in 1970.

Considering housework plus paid employment as labor and dividing the total number of housewives involved into four equal segments, the percentages of free time were calculated.

The results of the research are given here :

- (1) Compared to 1970, with the exception of unemployed housewives, the amount of free time on both ordinary days and holidays has decreased.
- (2) Time spent in housekeeping has decreased since 1970 by $1\frac{1}{2}$ hours ; however some housewives spend as much as 11 hours a day in activities such as sewing, gardening, and yard upkeep. Time spent at meals has increased, probably due to differing schedules of family members, necessitating separate meals. Also families are eating more leisurely, as well as spending more time entertaining guests.
- (4) Housewives are spending less time in activities outside the home, such as cultural pursuits. Time spent viewing television has decreased somewhat since 1970. Unemployed housewives spend time doing handwork, calisthenics, badminton, and growing flowers. Employed housewives read books in their free time. Women who do piecework at home are involved in no particular cultural activity.
- (5) The number of self-employed housewives (such as those who tend a shop in their homes) and of those who do piecework at home has increased somewhat. These women spend on housework

2 hours more on holidays and 3 hours more on regular days than did their counterparts in 1970.
(6) Employed housewives relax less on holidays in 1979, spending twice as much time on housework as on a regular day. This has remained unchanged since 1970.

I 研究目的

生活時間構造は、生活の時間的経過を主要因として分析する。生活は、家族状況、居住条件、生活水準、消費材の所有状況また生活意識などの構造要因によって成立しているために、主婦の就労によって1日あるいは1週間の生活時間構造が変わる。これは基本的には資本主義経済における労働時間、労働条件のあり方が索引車となっているからに他ならない。それ故にこそ家庭管理上の問題も指摘される。今日家事以外の仕事に就労する主婦が増加傾向にあり、家族の生命と労働力を維持発展させる家庭の社会的文化的任務を正しく位置づけるため、主婦の職業有無別、平日休日別生活時間構造を検討し、主婦の生活内容の改善向上に寄与したいと考えた。

この際最長の全労働時間を総労働とし、四分位値を求め、トータルな指標には休養率を算出した。

昭和45年に同様の主旨で全国的に調査した生活時間構造の調査結果では、主婦の職業有無別が、都市規模別、地域別の条件を上廻って、家事労働時間に影響していた(6) 中都市に住む無職の主婦の平日の家事労働時間は9時間、休日では7時間26分であったのに対し、勤務をもつ主婦は、平日で3時間39分、休日で7時間10分、内職の主婦では、平日5時間24分、休日で6時間29分と差があった。家族人数でいえば、6人以上で家事労働時間の増大がみられ、大都市に住む主婦の平日においてのみ有意差が大きかった。昭和45年は我国経済の高度成長期にあたり、主婦の就労が飛躍的に増大した頃であったが、その後オイルショック、低成長期と、この10年間の社会的情勢の変化は大きい。

そこで、ちょうど10年を経た今日、当時の調査と同一地域、同一対象校の生徒の母親に対し、生活時間調査を行なって、時間構造の変容を観察することとした。10年前の調査は、家政学分野での大規模な調査として知られているが、これを追跡的に使った調査は未だない。

II 調査方法及び対象

追跡的試みであるため、昭和45年に調査対象となった函館市M中学校の中学生の母親65人を被調査者とした。

昭和54年7月2日(月)から7月11日(水)までの10日間の任意の平日1日と、休日1日を選択させ、10分きざみの時間調査表を配布し、留置自計式によって記録させた。回収後(回収率100%)点検、整理し、個票を確実なものとし、別居で母親年齢不明2枚、時間記録の不備、平日休日ともに記入をしなかったもの6人分を除き、59人、118枚を有効票として使用した。その結果、調査表はすべて、平日は昭和54年7月10日(火)、休日は8日が調査日となっていた。被調査者の平均年齢は、40.45才、平均の家族数は4.5人である。

家族の特徴は次のようである。

7入家族のもの3世帯、ともに祖母同居である。居住別では二階建持家が2世帯、同借家が1世帯である。

中都市主婦の生活時間構造の追跡調査

対象主婦別	調査年		54年調査, 59人について		45年調査, 65人について	
	平日	休日	対 象 数	調 査 項 目	対 象 数	調 査 項 目
無 職 主 婦	平 日	休 日	32	19	46	19
	休 日	休 日	32	19	46	19
内 職 主 婦	平 日	休 日	17	19	12	19
	休 日	休 日	17	19	12	19
勤 務 主 婦	平 日	休 日	5	19	7	19
	休 日	休 日	5	19	7	19
自 営 主 婦	平 日	休 日	5	19	0	0
	休 日	休 日	5	19	0	0

6人家族は6世帯, 祖父母同居1世帯, 祖母同居2世帯, 5人家族は18世帯, うち祖母同居は5世帯, 他は, 家族周期第II期の「夫婦と未婚の子」の構成である。

対象者数のほぼ1/6の家庭に祖母同居があり, 祖父同居は僅かに1世帯, 1/59にすぎない, まさに現代を象徴しているようだ。なお, 34人が, 持家居住, 1人が杜宅居住, 他は借家居住である。また持家居住のうち25人が, 二階建に, 4人が店舗併用の住宅に住んでいた。

10年前の比較資料には, 地方別・都市規模別主婦の生活時間調査(6)の函館分130枚を, 再度点検整理し集計して使用した。この担当者は著者であった。

調査の目的に添い, 調査項目, 集計方法を同一にし, 表記も出来るだけ揃えるようにつとめた。生活条件の変化から当然予測出来る項目について一部修正をした。

集計にあたっては, 北教大函館分校 HITAC 10 を使用した。

調査対象の内訳は次の通りである。

III 昭和54年, 45年主婦の職業有無別, 平日休日別生活時間

昭和54年調査結果を表1に, 同45年調査結果を表2に示した。45年調査結果は以下45年値とする。

生理的時間は1から3まで, 労働時間は4から7まで, 家事労働時間は8から9まで, 社会的文化的時間は14から19までの項目とし, それぞれ小計を算出し, 最後に休養率を加えた。休養率は次の式による。

$$\text{休養率} = \frac{\text{睡眠時間} + \text{余暇時間} \times 0.8}{\text{職業労働時間} + \text{家事労働時間} \times 0.8 + \text{余暇時間} \times 0.4}$$

1. 総労働について

総労働を, 平日休日別の平均でみれば, 休日で45年値より13分減少, 平日で1時間44分の増となった(表3)。家事労働は10年前より平日で1時間30分減少し5時間54分, 休日は1時間10分減少し5時間51分である。

家事以外の増加は, 内職, 自営, 勤務等による増であり平日の総労働が増えている。休日には, 内職主婦の労働時間がもっとも多く, 彼女らは休日でも内職を続けている。内職には, 縫物, 和裁,

表1. 職業有無別、平日・休日別主婦の生活時間（昭和54年）

項 目	平 均		無 職		内 職		勤 務		自 営		
	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	
調 査 有 効 数	59	59	32	32	17	17	5	5	5	5	
生 理 的	1. 睡 眠	7時 ²⁵ 分	8時 ¹⁰ 分	7時 ²⁹ 分	8時 ¹⁴ 分	7時 ⁰⁶ 分	7時 ⁴⁶ 分	7時 ⁰⁸ 分	8時 ⁰⁶ 分	8時 ¹³ 分	8時 ⁴⁹ 分
	2. 食 事	1. 40	2. 04	1. 58	2. 09	1. 47	1. 53	1. 20	1. 55	1. 25	1. 56
	3. 身 仕 度	0. 34	0. 41	0. 32	0. 38	0. 38	0. 42	0. 39	0. 31	0. 44	0. 56
	小 計	9. 39	10. 55	9. 59	11. 01	9. 30	10. 21	9. 07	10. 32	11. 22	11. 41
収 入 の た め	4. 通 勤	0. 01	0. 05	0. 00	0. 00	0. 03	0. 02	0. 12	0. 00	0. 00	0. 00
	5. 勤 務	0. 04	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	8. 49	0. 00	0. 00	0. 00
	6. 内 職	2. 01	1. 08	0. 00	0. 00	7. 04	3. 50	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
	7. 自 営	2. 56	0. 10	0. 00	0. 00	0. 43	0. 00	0. 00	0. 00	8. 26	1. 54
小 計	5. 02	1. 23	0. 00	0. 00	7. 50	3. 52	9. 01	0. 00	8. 26	1. 54	
家 事 労 働	8. 炊 事	2. 56	3. 03	3. 10	3. 02	2. 46	3. 19	2. 14	2. 47	1. 43	1. 29
	9. 掃 除	0. 47	0. 58	1. 00	0. 55	0. 43	0. 58	0. 10	0. 56	0. 35	1. 10
	10. 洗 濯	0. 38	0. 42	0. 50	0. 37	0. 25	0. 49	0. 48	0. 47	0. 14	1. 02
	11. 裁 縫・編 物	0. 34	0. 58	0. 51	0. 25	0. 24	0. 00	0. 06	0. 48	0. 00	0. 24
	12. 育 児・教 育	0. 06	0. 04	0. 08	0. 03	0. 06	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 24
	13. そ の 他	0. 53	1. 06	1. 14	1. 26	0. 33	0. 23	0. 18	1. 05	0. 20	1. 28
小 計	5. 54	5. 51	7. 13	6. 28	4. 57	5. 30	3. 36	7. 13	2. 52	5. 57	
総 労 働	10. 56	7. 14	7. 13	6. 28	7. 47	9. 29	12. 37	7. 13	11. 18	7. 51	
社 会 的 文 化 的	14. テ レ ビ	1. 40	2. 23	2. 15	2. 42	1. 14	2. 03	1. 00	2. 24	1. 00	1. 18
	15. 休 息・談 話	0. 41	0. 57	1. 04	1. 10	0. 52	0. 30	0. 18	1. 04	1. 12	0. 51
	16. 雑 用	0. 06	0. 16	0. 08	0. 23	0. 06	0. 00	0. 00	0. 18	0. 00	0. 24
	17. 教 養・娛 楽	0. 44	0. 39	1. 25	0. 55	0. 06	0. 27	0. 14	0. 12	0. 00	0. 00
	18. 交 際	0. 33	0. 37	0. 45	0. 32	0. 19	0. 33	0. 42	0. 10	0. 00	0. 58
	19. そ の 他	0. 40	0. 50	1. 27	0. 50	0. 06	0. 44	0. 02	1. 07	0. 08	0. 52
小 計	4. 24	5. 32	6. 48	6. 32	1. 43	4. 17	2. 16	6. 05	2. 20	3. 28	
合 計	24. 00	24. 00	24. 00	24. 00	24. 00	24. 00	24. 00	24. 00	24. 00	24. 00	
休 養 率	0. 94	1. 52	1. 75	2. 08	0. 87	1. 38	0. 85	1. 16	1. 13	1. 73	

表2. 10年前の職業有無別、平日・休日別主婦の生活時間（昭和45年）

項 目		平 均		無 職		内 職		勤 務	
		平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日
調 査 有 効 数		65	65	46	46	12	12	7	7
生 理 的	1. 睡 眠	7時30分	8時28分	7時32分	8時22分	7時35分	9時05分	7時00分	7時34分
	2. 食 事	0.57	0.56	0.57	0.57	0.56	0.53	0.55	1.00
	3. 身 仕 度	0.53	0.51	0.57	0.54	0.45	0.46	0.50	0.49
	小 計	9.20	10.16	9.26	10.13	9.16	10.43	8.45	9.23
取 入 の た め	4. 通 勤	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.56	0.00
	5. 勤 務	0.54	0.00	0.00	0.00	1.11	0.00	7.35	0.00
	6. 内 職	0.51	0.27	0.00	0.00	3.36	1.54	0.00	0.00
	7. 自 営	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小 計	1.51	0.27	0.00	0.00	4.53	1.54	8.31	0.00	
家 事 勞 働	8. 炊 事	2.59	3.03	3.13	3.19	2.31	2.19	2.00	3.01
	9. 掃 除	0.58	0.49	1.07	0.46	0.40	0.43	0.38	1.27
	10. 洗 濯	0.38	0.35	0.45	0.33	0.22	0.28	0.22	1.08
	11. 裁 縫・編 物	1.09	0.38	1.18	0.26	0.18	1.05	0.12	0.58
	12. 育 児・教 育	0.06	0.04	0.08	0.04	0.11	0.00	0.15	0.17
	13. そ の 他	1.41	1.52	2.01	1.58	1.01	1.26	0.36	2.12
小 計	7.21	7.00	8.32	7.06	5.03	6.02	4.03	9.03	
総 計	9.12	7.27	8.32	7.06	9.56	7.56	12.34	9.03	
社 会 的 文 化 的	14. テ レ ビ	1.33	2.00	1.46	1.56	1.10	2.07	0.49	2.06
	15. 休 息・談 話	2.00	2.02	2.08	2.08	1.41	1.49	1.43	1.50
	16. 雑 用	0.06	0.08	0.00	0.02	0.04	0.01	0.00	0.05
	17. 教 養・娛 楽	1.10	1.09	1.20	1.20	1.22	0.51	0.09	0.13
	18. 交 際	0.36	0.48	0.41	0.58	0.31	0.08	0.00	1.20
19. そ の 他	0.03	0.10	0.05	0.18	0.00	0.25	0.00	0.00	
小 計	5.28	6.17	6.02	6.42	4.48	5.21	2.41	5.34	
合 計	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	
休 養 率	1.21	1.62	1.36	1.70	1.06	1.54	0.71	1.29	

表3. 職業有無別, 平日・休日別総労働の比較

項 目	平 均		無 職		内 職		勤 務		自 営	
	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日
現在の総労働 ()は家事労働	時分 ○10.56	時分 △7.14	時分 △7.13	時分 △6.28	時分 △7.47	時分 ●9.29	時分 ○12.37	時分 △7.13	時分 11.18	時分 7.51
	△(5.54)	△(5.51)	△(7.13)	△(6.28)	△(4.57)	△(5.30)	△(3.36)	△(7.13)	(2.52)	(5.57)
10年前の総労働 ()は家事労働	9.12	7.27	8.32	7.06	9.56	7.56	12.34	9.03	—	—
	(7.24)	(7.00)	(8.32)	(7.06)	(5.03)	(6.02)	(4.03)	(9.03)		

表中の印：△は10年前より減少、○は少し多くなったか、10年前とほとんど変わらず、●は10年前より著しい増加をあらわす。

表4. 職業有無別, 平日・休日別家事労働比率(昭和54年)

項 目	平 均		無 職		内 職		勤 務		自 営	
	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日	平 日	休 日
調査有効数	59	59	32	32	17	17	5	5	5	5
家事労働時間	時分 5.54	時分 5.51	時分 7.13	時分 6.28	時分 4.57	時分 5.30	時分 3.36	時分 7.13	時分 2.52	時分 5.57
家事労働比率	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
炊 事	39.8	51.2	42.5	46.6	55.6	11.0	63.0	51.6	59.8	26.0
掃 除	16.8	16.2	13.3	14.2	13.8	17.5	4.6	12.0	22.5	19.6
洗 濯	11.3	11.6	11.0	10.5	8.0	15.5	23.4	10.9	8.2	18.4
裁縫・編物	11.8	5.6	15.3	6.4	7.0	0.0	0.3	11.0	0.0	6.8
育児・教育	3.8	1.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8
そ の 他	16.5	15.3	17.8	21.3	15.5	6.0	8.7	14.5	11.5	22.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

洋裁、保険外務などをあげていた。

収入のための時間をみると、内職の主婦の時間量は、45年値と比べ、平日で3時間、休日で2時間の増加となった。10年前には対象にあがってこなかった美容師、雑貨店などの自営の主婦は、平日で11時間18分、休日で、7時間51分も働いている。

主婦たちの社会的労働への参加が増えているが、家事との両立は、重要な課題である。

2. 家事労働時間について

家事労働時間は、表4、5のように、職業有無に関係なくすべての主婦について、負担量の減少がみられる。

平日休日別にみると、休日には勤務をもつ主婦と、自営の主婦の家事労働時間が著しく増加し、1週間にため込んだ家庭の仕事をこなすため、平日の仕事量の2倍となる。内職の主婦は平日の20%増、無職の主婦だけ、平日より50分減ってくる。職業をもつ主婦のこの1週間のサイクルは10年前と変わらない。

炊事時間は、台所の合理化がすゝみ作業が楽になっているにもかかわらず、時間量では45年値とあまり変わっていない。これは、食事献立の多様化、弁当づくり、後片付け時間量の増、不規則な食事時間帯などが含まれている。

表5. 10年前の職業有無別、平日・休日別家事労働比率

項目	平均		無職		内職		勤務	
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
家事労働時間	時分 7.21	時分 7.00	時分 8.32	時分 7.06	時分 5.03	時分 6.02	時分 4.03	時分 9.03
家事労働比率	%	%	%	%	%	%	%	%
炊事	40.1	43.6	37.6	46.8	49.8	38.5	49.4	33.3
掃除	13.2	11.6	13.1	10.7	13.1	11.9	15.6	16.0
洗濯	8.6	8.3	8.8	7.8	7.3	7.8	9.1	12.5
裁縫・編物	13.3	9.0	15.3	6.0	6.0	18.0	4.9	10.7
育児・教育	2.1	0.9	1.6	0.8	3.5	0.0	6.2	3.1
その他	22.7	26.6	23.6	27.8	20.3	23.8	14.8	24.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表6. 職業有無別、平日・休日別社会的文化的時間の比較

項目	平均		無職		内職		勤務		自営	
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
① 社会的文化的時間	時分 △4.24	時分 △5.32	時分 ○6.48	時分 ○6.32	時分 ▲1.43	時分 △4.17	時分 △2.16	時分 ○6.05	時分 2.20	時分 3.28
② 内TV	1.40	2.23	2.15	2.42	1.14	2.03	1.00	2.24	1.22	0.51
③ ①-②	2.44	3.09	4.33	3.50	0.29	2.14	1.16	3.51	1.08	2.37
10年前										
① 社会的文化的時間	5.28	6.17	6.02	6.42	4.48	5.21	2.41	5.34	-	-
② 内TV	1.33	2.00	1.46	1.56	1.10	2.07	0.49	2.06	-	-
③ ①-②	3.55	4.17	4.16	4.46	3.38	2.14	1.52	3.28	-	-

表中の印：○は10年より少し多くなったか、ほとんど変わらないもの、△は10年前より減少、▲は著しい減少をあらわす。

無職主婦の洗濯には、1日2回洗濯をするものが多数あり、調査時期が暑い7月上旬で、衣服の汚れも目立ち、洗濯量が増えたものと思われた。

内職の主婦はどの家庭でも、休日は、平日より掃除が減って洗濯量が増す。

勤務の主婦は、炊事時間の占める比率が高く45年値と比べ、その割合はより多くなった。平日は炊事と洗濯（時間帯でみて、夜洗濯をするもの多い）に重点をおき、休日には、家事のすべてを処理する。勤務主婦の家事労働時間の差は、家族の世話に使う時間量の違いによる。10年前にみられた裁縫・編物は、今は時間的反映がない（1）（8）。このことは内職の主婦にもあてはまる。

自営の主婦は、職業の種別、外食志向によって、平日と休日の炊事時間に個人差がある。

3. 社会的文化的時間について

職業有無別、平日休日別の社会的文化的時間を、表6に示した。

無職の主婦の平日と、勤務の主婦の休日に個人差があったが、平均してすべての主婦について、平日休日とも、45年値に比べ1時間余り減少してきている。

社会的文化的時間では、テレビ視聴の占める割合の高いことは知られている通りだが、この時間を除いて、無職の主婦の平日、勤務をもつ主婦の休日で若干多くなっている程度で、全体として45年値に比べ、伸びは小さい。特に内職主婦の平日の社会的文化的時間は、29分、テレビを視る時間も

少ないが、それを除いても極めて少ない。

テレビ視聴を除いた休息談話の時間量は、内職の主婦、勤務をもつ主婦ともに、45年値より1時間から1時間30分の減少で、それぞれ平日で、52分、18分である。もっとも勤務をもつ主婦は、休日で1時間余り、休息談話、その他の時間に家族との接触や休養をとり戻しているが、内職の主婦には、休日における回復がなく、休日も家計補助等のために働いている状況にある。

主婦の教養娯楽は平均で45年値より減っている。たゞ無職の主婦のみ平日1時間25分と他より多い。その場合教養としてあげられていたのは、手芸、刺繍である。

交際も、平均の時間量は45年値と比べ変っていない。しかし勤務の主婦で平日休日とも増加し、内職の主婦で休日9分と大巾に減少した。テレビ視聴と休息以外、みるべき社会的文化的時間をもちあわせ得ない。これが今回調査の特徴のひとつであった。

IV 総労働の四分位値について

前節では、1人の主婦の背景となる家庭基盤を時間構造に集約、平均化して観察したが、今度は、主婦の生活実態に今少し接近するため、総労働の四分位値を求め、その事例を中心に考察を加えることとする。

54年の調査対象数118枚、45年の調査対象数130枚について、総労働の小さいものから大きいものへ順次並べて、四分位値にあたる個票をとり出し、 Q_1 、 Mdn 、 Q_3 にあたる事例を、45年分についても同様にした。四分位値にあたる個票が同数、二種以上の場合、全部とりあげることにしておいた。

Q_1 の平日には、内職主婦調査番号⑧、無職主婦調査番号①、休日は、無職主婦調査番号⑥となる。同様に、 Mdn の平日は、無職主婦②、休日は、同じ②、内職主婦②⑤となり、 Q_3 には、平日に無職主婦⑦、内職主婦⑩、休日に、無職主婦④⑦と④⑧となる。これらの個票は点検の際、すでにそれぞれ個性のあることに注目していたものである。(表7、参照)

1. 四分位値の総労働について

表8でみると、 Q_1 、 Mdn 、 Q_3 の間に、ほゞ1時間づつの差がある。45年値に比べ、無職の主婦が平日に使う家事労働時間は、少ないもので1時間30分、多いもので、11時間10分、休日には少ないもので、4時間50分、多いもので14時間とその巾が大きい。45年値の四分位値と比較すれば、平日の Q_1 で2時間5分、 Mdn で1時間、 Q_3 で1時間50分少なくなった。家事労働の減少は休日にもあり、 Q_1 、 Mdn で減少、 Q_3 では反対に1時間余り増加した。休日分の Q_3 での増は内職主婦の休日労働の反映である。

こうしてみると総労働の四分位値を左右する要因は、無職の主婦の家事時間と、内職主婦の休日労働の増加の二点をあげることが出来よう。

2. 四分位値の生理的時間について

睡眠時間は、7時間から8時間と職業有無別の差が明瞭でなく、むしろ平日休日別の差がはっきりしている。

食事時間は一般に、内職主婦の場合少なく、1時間10分から1時間30分である。また休日には、来客、家族との接触、休養等から、食事時間が3時間前後に延長する傾向がみられた。

表7. 総労働四分位値の事例一覧

四分位値	Q ₁			Mdn			Q ₃			
	平日		休日	平日		休日	平日		休日	
事例番号	内職⑧	無職①	無職⑥	無職⑦	無職②	内職⑨	無職⑭	内職⑬	無職⑭	内職⑯
	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分
1. 睡眠	7.00	8.00	7.30	7.30	7.30	8.00	8.30	7.00	8.00	8.00
2. 食事	2.00	1.40	1.00	2.00	3.30	1.30	2.00	1.30	3.10	1.10
3. 身仕度	1.00	0.55	0.30	0.20	0.30	0.50	0.30	0.30	1.10	1.00
4. 通勤	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5. 勤務	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
6. 内職	6.30	0.00	0.00	0.00	0.00	8.30	0.00	9.50	0.00	9.10
7. 自営	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
8. 炊事	4.30	4.35	4.30	3.00	4.30	1.50	2.10	0.50	2.50	1.30
9. 掃除	1.00	1.00	1.00	1.00	0.40	0.50	1.50	0.00	1.25	0.30
10. 洗濯	1.00	1.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.45	0.30
11. 裁縫・編物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
12. 育児・教育	0.00	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.40	0.00
13. その他	1.00	1.00	6.35	1.00	2.00	0.00	2.10	1.00	2.00	1.00
14. TV	0.00	0.20	2.00	4.30	3.10	0.00	1.10	1.10	1.30	1.10
15. 休息・談話	0.00	1.00	0.40	0.30	0.50	1.30	0.00	0.00	0.20	0.00
16. 雑用	0.00	0.00	0.00	0.10	0.30	0.00	0.00	0.30	0.00	0.00
17. 教養・娯楽	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00	1.00	0.00
18. 交際	0.00	2.10	0.00	0.00	0.30	0.00	3.00	1.30	0.00	0.00
19. その他	0.00	0.30	0.15	4.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
備考	和裁を内職としており、休日も3時間働く。		ゴミ処理掃除、洗濯を一しに行動、美容体操。	13は、買物4時間、記帳など2時間。	9はラジオを聴きながら、13は風呂たき、19は庭の手入。			18は通院と、その帰途の交際。		17は刺しゅう。平日に倍の時間になる。

表8. 平日・休日別、総労働四分位置

項目	平日		休日		平日		休日	
	現在	10年前	現在	10年前	現在	10年前	現在	10年前
四分位置	事例	その平均	事例	その平均	事例	その平均	事例	その平均
Q ₁	8.時 ²⁵ 分	6.時 ²⁵ 分	9.時 ¹⁵ 分	7.時 ⁵⁹ 分	7.時 ¹⁰ 分	6.時 ²⁵ 分	8.時 ⁰⁰ 分	6.時 ¹² 分
Mdn	11.40	11.35	10.55	10.52	8.50	8.50	9.20	9.10
Q ₃	14.00	13.28	13.00	13.13	11.20	14.28	11.10	12.32

身仕度の時間については、総労働に関係なく30分がもっとも多い。入浴時間を入れる場合、20分から30分長くなる。

3. 四分位値の家事労働時間について

総労働の小さいもの程炊事時間の比率が高くなる。平日で4時間30分程度炊事に配分される。総労働の大きい Q_3 では、短くなり、職業有無別に差があった。

ゴミ処理を含む掃除は、平日の勤務主婦がもっとも少なく10分位であったが、総じて職業有無別の差がなく、40分から1時間25分の間の時間量である。平日休日別の差は、 Q_3 でみられた。

洗濯は総労働の小さい Q_1 で、アイロンかけを含む修理の時間量多く、内職主婦の平日、無職主婦の休日で洗濯をしないものがあつた。洗濯機が普及している今日(1)、掃除との重複行動をとるのが大多数である。なかにはラジオを聴きながらというのもいた。

裁縫・編物は、ほとんどの主婦がしない。ただ無職主婦の一部に小物づくりがみられた。

育児・教育に要する時間は少ない。子供の話し相手などと記入されていたのは、無職の主婦の平日にあつた。

その他には、買物、家族サービス、家族の就寝の支度、風呂たき、家計簿記帳などが含まれているが、 Q_3 の無職の主婦では、買物に時間をかけ、家族サービス、家計簿記入となっていた。

4. 四分位値の社会的文化的時間について

無職主婦のテレビ視聴の高いことは知られている通りだが、総労働が大きくても、テレビ視聴の少ない主婦は、手芸教室に通う、手芸をする、社会学級、学級会へ参加する。 Q_1 のところでは、美容体操をするなどと、家庭外に人間関係を求め、関心をむけ、炊事時間を出来るだけ合理化しようとする傾向がある。

これに対し内職主婦は、出来るだけ内職に集中しようとする実態である。

ところで、総労働の四分位値で分類した事例には、勤務をもつ主婦や自営の主婦は抽出されなかつたので、 Mdn に近い勤務主婦、調査番号⑩をみると、休日では、炊事、3時間15分、掃除、1時間、洗濯45分などと、無職主婦の平日に等しくなる。自営の主婦、調査番号⑦では、勤務主婦と反対に、休日の炊事時間を1時間半に節約し洗濯1時間、裁縫や補修に2時間、その他買物等2時間というように、1週間の家事労働をし、その上、実際などに約2時間を使い、通常の実生活の活動を一挙にとり戻すといった具合である。

V 休養率について

総労働を中心に、職業有無別、平日休日別の主婦の生活時間構造をみたが、職業の有無によっても、平日休日別によっても多様な構造であることが分かつた。主婦の背景となる生活基盤と、志向する生活目標あるいは人間観、生活観によって、実際の1日、あるいは1週間は、より複雑な有機的な状況におかれるに違いない。そのうち、主婦が、自己と家族の安全と発展のために考え、工夫し、よって積極的に人生を生き抜くためには、その源動力となる休養率を高めなければならないだろう。表9は、それの一覧である。

表9によって、10年間の変容は明らかにされる。平日休日別の生活のしくみがあり、45年値に比べ休養率は小さくなった。職業有無別に無職主婦だけが、平日も休日も休養率が高くなったものの、

表 9. 職業有無別、平日・休日別休養率の比較

項目	平均		無職		内職		勤務		自営	
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
現在	0.90	1.52	1.75	2.08	0.89	1.38	0.85	1.16	1.13	1.73
10年前	1.21	1.62	1.36	1.70	1.06	1.54	0.71	1.29	—	—
増減(Δ)	Δ0.31	Δ0.10	0.39	0.28	Δ0.17	Δ0.16	0.14	Δ0.13	—	—

内職主婦の平日休日、勤務の主婦の休日の休養率は小さくなってきている。さきに述べた生活の課題がより鮮明になってきているときだけに、休養率の減少は問題が大きい。

VI 要 約

生活時間構造は生活の時間的経過を主要因として分析する。主婦の就労が、家事労働時間に大きく影響し、1日あるいは1週間の生活のしくみを変化させる。家政学の分野では大規模な調査とされていた、地方別・都市規模別主婦の生活時間調査を45年値として比較しながら、主婦の職業有無別、平日休日別に、生活時間構造を検討した。この際、全労働時間（家事労働+収入のため）の四分位値を求め、トータルな指標には休養率を使った。

結果は、

① 45年値に比べ、平日の総労働が増え、平日休日とも休養率が減少した。ただし、無職の主婦のみ、総労働、実際は家事労働が減少し、休養率も増した。

② 家事労働時間の平均は、45年値に比べすべての主婦で1時間30分の減少となった。ただし職業有無別の差が大きい。無職主婦でも家事労働時間に差があり、家族人数の多い場合や、縫物、家庭菜園、庭の手入れなどの場合には11時間に及ぶものもあった。

③ 一般に食事時間が増えてきた。それは、夫の勤務時間、子供のアルバイトなどにより、家族の食事時間が分断され主婦自身の食事時間も増していくことと、来客、家族団らんのためとがある。

④ 社会的文化的時間が減少してきた。テレビ視聴時間の減少もさることながら、それにも増して、総労働の増加、休養率の低下、睡眠時間の固定、テレビに求める文化的欲求充足の状況などがすべて関連している。家族数の少ない休養率の大きい無職主婦の生活のし方は、検討に値する。

⑤ 内職、自営（規模は小さく単独か、家族で）の主婦は、軒増傾向にあり、とりわけ内職をするものが多くなっている。45年値に比べ、平日3時間、休日で2時間以上も多く働き、総労働時間が多く、休養率のもっとも小さい。

⑥ 勤務をもつ主婦は、平日の休養率が低く、休日には、平日の2倍量の家事労働をする。このサイクルは、45年値と変っていない。

昭和35年以降家事労働時間は減少を続け(1)、(2)、(3)、昭和45年の調査(6)、46年調査(4)でも、また今回の場合でも減少傾向にある。しかし、平均の休養率は多くなっていない。内職の主婦の例にみるように、休日も労働日となる場合と、一方無職の主婦のように、休養率がます

ます大きくなり、それも主婦を一括して把え切れない多極性をはらみつゝ進行するという場合とがみえた。これらは全国的傾向とも一致しよう(1)、(5)、(8)。

今までは、主婦の人格上の拘束の程度(4)を、非拘束時間として考察してきたが、現在同様の方向を志向する見解も多い(5)、(7)、(8)。休養率をとりあげたのもそのためであった。なお、函館市内職主婦のような深刻な生活維持活動が現れたのは、昭和51年の造船不況がその要因ではないか。なお研究対象を拡げ、家庭経営上の検討を続けることとしたい。

最後に、集計に際し、本学数学科教育中川正教授、本学家政専攻生和泉弘美、平田久美子さんの協力を得た。ここに感謝の意を表し、調査の対象となった函館市M中学校の先生、生徒、そして母親の皆さんにはお礼を申し上げる。

引用文献

- 1) 阿部和子他(1978)家事労働の現状と動向(第3報), 家政誌, 29(8), 63.
- 2) 稲葉ナミ他(1973)共働き家庭と一般家庭夫妻の生活時間構造について(第9報), 家政誌, 24(8), 63-67.
- 3) 稲葉ナミ他(1973)共働き家庭と一般家庭の夫妻の生活時間構造(第10報), 家政誌, 25(2), 55-61.
- 4) 清野きみ(1976)専業漁家主婦の生活時間構造の変容, 北教大紀要II C, 27(1).
- 5) 大森和子他:生活経営学, ドメス出版, 東京(1979).
- 6) 生活時間研究グループ代表稲葉ナミ(1971). 地方別・都市規模別主婦の生活時間調査, 昭和46年度文部省科学研究補助金(総合研究A)による.
- 7) 横山シズ(1977), 家庭管理学における「共働き研究」の問題と展開, 宮城学院女子大研究論文第47号.
- 8) 宮崎礼子・伊藤セツ編:家庭管理論, 有斐閣, 東京(1978)180.